

＊ ニュースレター ＊

2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より



会員みなさまへ
[ごあいさつ](#)
日本歯科審美学会長 田上順次



第16回日本歯科審美学会学術大会のご案内
[第16回日本歯科審美学会学術大会開催によせて](#)
第16回日本歯科審美学会学術大会 大会長 諏訪富彦



第8回アジア歯科審美学会・第15回日本歯科審美学会学術大会報告
[Global Esthetic Forum 2004@Nagoyaを開催して](#)
大会長 千田 彰



第8回アジア歯科審美学会・第15回日本歯科審美学会学術大会報告
[審美治療における歯科衛生士の重要性を再確認](#)
歯科衛生士担当常任理事 佐藤二三江



第4回IFEDベニス大会報告
[第4回IFEDベニス大会に参加して](#)
昭和大学齲蝕・歯内治療学教室 星野睦代



優秀発表賞受賞者のご紹介
[第13回日本歯科審美学会学術大会優秀発表賞を受賞して](#)
岩手医科大学歯科補綴学第二講座 照井崇之



優秀発表賞受賞者のご紹介
[第14回日本歯科審美学会大会デンツプライ賞を受賞して](#)
医療法人本山歯科 本山智得

[委員会報告](#)

[昭和大学歯科病院に美容歯科の誕生](#)
昭和大学歯科病院美容歯科 真鍋厚史



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

会員のみなさまへ



ごあいさつ

日本歯科審美学会長 田上順次

私は、日本歯科審美学会が社会的に信頼され、期待される組織でありたいと願っています。どれだけ専門知識と治療技術に優れた歯科医師であっても、社会的な支持、つまり患者さんの期待に応え、満足を提供できなければ、歯科医師本来の職責を全うしているとはいえません。

患者さんの不満は、治療内容だけではなく、その費用との関連において人々がどれだけ満足できたかにも左右されます。例えば保険治療であっても内容がそれなりに伴わなければ、患者さんの不満は高まります。一方、一般的な感覚からすればかなり高額であっても、患者さんが結果に対して満足してくだされば不満はないでしょう。

日経BPのアンケート調査によると、驚くべきことに歯科医院を受診した人の77%が不快な経験や不満を訴え、そのうち51%が治療効果に対する不満、44%が歯の状態や治療の見通しの情報が不十分と回答しています。また不満を感じた人のうち70%が転医しているとのこと。歯科医師過剰というのは歯科医療提供者側の論理であって、患者の望むよい歯科医は不足しているといえます。不快、不満の理由には、歯科医の言葉使いや態度、わかりにくい説明も挙げられています。

このような調査結果からすれば、歯科医師にとっての解決策は、あたりまえのことですが、適切なインフォームドコンセントに尽きるようです。治療費の説明は当然ですが、治療により得られる結果の予測も、患者さんの満足を得るためには必須のようです。歯科審美に関しては患者さんの期待が非常に大きいのが特徴です。その治療の結果は患者さん自身である程度判断することが可能です。そのため患者さんの期待に十分に答えられないと不満が生じ、トラブルの原因にもなりやすいといえます。しかし逆に考えれば、大きな満足を提供することも可能で、そのような場合には、患者さんからは絶大な信頼を得ることができます。

歯科審美のプロとして会員諸氏がその技量を十分に発揮し、患者さんとのコミュニケーションを通して信頼を得てくださることで、日本歯科審美学会の社会的評価も向上するものと信じています。そのための活動を強化してゆければと考えておりますので、ご指導、ご協力をお願いいたします。会員の皆様一人一人に日本歯科審美学会の看板を背負って社会にアピールしていただき、ますますご発展されますことを祈念申し上げます。



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

第16回日本歯科審美学会学術大会のご案内



第16回日本歯科審美学会学術大会開催によせて

第16回日本歯科審美学会学術大会 大会長 諏訪富彦

この度日本歯科審美学会学術大会を大阪にて開催する運びとなりました。準備は大会長を始め、主として開業医が準備委員会を構成、運営にあたっておりますが大阪大学歯学部補綴学講座（主任：矢谷博文教授）、大阪歯科大学歯科技工士専門学校（校長：末瀬一彦教授）に御支援、御協力を頂いております。本学術大会は運営に際して、その基本コンセプトを開業医の視点から参加者の皆様に楽しく新機軸による充実した内容に致したいものと思案しております。プログラム編成の概要は主会場においては今大会のメインテーマである「傾聴・共感・共生と歯科審美」を中心に特別、招待、基調、教育等の講演を実施し、「市民フォーラム」では当学会の特色や研究活動、社会的役割や責務を市民の皆様に分かりやすく解説し理解を深めて頂きたいと考えております。主会場のほかに4つの会場を設け10月8日（土）、9日（日）の両日にわたって、1) コンポジットレジンレストレーションと審美歯科、2) オールセラミックレストレーションと審美歯科、3) インプラントと審美歯科、4) その他の課題と審美歯科、以上の4テーマについて各々の会場にてクリニカルセミナー・ランチョンセミナーを催す予定です。多彩なテーマと魅力ある講師陣による充実した内容のお話を伺うことによって皆様の明日からの臨床や研究にお役に立てて頂けるものと確信しております。本学術大会においては大学関係者、臨床医、企業、歯科協力者によってさまざまな分野における活動や研究の成果が発表される集学的な学会であり、有意義な大会となります様、色々と工夫を致したいと考えております。また、日々進歩する診療機器、器材を協賛企業の皆様に御紹介頂き、参加者が直接手に触れて楽しく時を過ごして頂けるよう配慮いたしたいと思っております。日頃臨床活動を歯科医師と共になさっている歯科技工士、衛生士の皆様にもお役に立つ医療情報をお届けする様にプログラム編成を行っております。当学会が参加者の皆様にとって楽しく充実した二日間になります様準備委員一同鋭意準備を進めてまいりますので会員の皆様を始め、お知り合いの方々にも参加のお誘いを頂き、豊かな食文化を始め庶民の生活感が息づく町大阪へのお越しを心よりお待ちしております。



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

第8回アジア歯科審美学会・第15回日本歯科審美学会学術大会報告



名古屋国際会議場

Global Esthetic Forum 2004@Nagoyaを開催して

大会長 千田 彰

第8回アジア歯科審美学会（AAAD）大会をホストして第15回学術大会が名古屋国際会議場で2004年7月16日から19日の間、盛会裏に開催されました。参加登録者は約700名で、その他企業展示関係、公開講座参加者、スタッフを含めて約1,000名の参加がありました。外国からの参加は、ヨーロッパ、アメリカ、カナダはじめスリランカ、ネパール、ブータン、モンゴル、ウズベキスタン、中国、台湾、韓国、インドネシア、フィリッピン、シンガポール、マレーシア、タイなどアジア諸国から100名を超え、国際色豊かな学術大会となりました。さらに歯科技工士、衛生士の参加も多数あり、“審美歯科ファミリー”の大会にふさわしいものとなりました。大会長として皆様のご協力に感謝申し上げます。

大会は16日夕方の本部ホテル、ホテルグランコート名古屋でのウエルカムレセプション、AAAD理事会からスタートしました。レセプションは同ホテル最上階の展望宴会場で200名以上の参加者を得て、名古屋市内のパノラマ夜景を楽しみながら和やかな雰囲気で行われました。一方AAAD理事会では松尾（当時）会長らの理事20名の参加のもとで、いくつかの重要案件が審議され、とくに長い間継続審議となっていたAAADの「原則連盟制」移行については慎重審議のうえ、承認されました。

翌17日から19日午前中まで、大会メインテーマ、Sciences in Esthetic Dentistry（審美歯科を科学する）のもと名古屋国際会議場の白鳥ホール（1、2）、国際会議室、4つの大セミナー室などにおいて基調講演、特別講演、セミナー（ランチョン、イブニングも含め）、衛生士、技工士セッション、アジア諸国の公式演者によるアジアフォーラム、4つのテーマによるシンポジウム、一般ポスター発表、企業展示、公開講座などがいずれも多く参加者、活発な討論を得て、順調に行われました。技工士、衛生士セッションを除いては公式言語が英語でしたが、同時通訳のもとでスムーズに討論が行われました。

この大会のもう一つのハイライト、Gala Dinnerは18日の夕方、本部ホテルの主宴会場に450名近い参加者を得て開催されました。国際歯科審美学会（IFED）、AAAD、JAEDの各々の現、次期会長がステージ上に揃い、相互の連携と歯科審美の発展への貢献が強く誓われたことは印象的でした。モンゴル出身の「草原の歌姫」として日本で活躍中のオユンナさんの迫力と情緒ある、そしてアジアの国際交流を象徴するステージが行われた頃には、宴が一層盛り上がり、参加者の間の親交がさらに深まったようです。

アジアの学会として、とくに企画した公開講座「われらがなかま、アジアの人々」には一般市民も多数参加し、馬場国立科学博物館教授と大野愛知学院大学教授によるアジア人の民族の成り立ち、それぞれの文化と顔の特徴などの講演を熱心に聴講したようです。また学会終了後は、とくに海外からの参加者を招待し、ポストコングレスバスツアーが実施され、名古屋郊外の「珍し

い」神社、国宝犬山城、国宝有楽苑（茶室、庭園）を訪ね、参加者全員で多いに盛り上がり、最後は別れを惜しみつつ散会しました。



にぎわうポスター会場



千田大会長とマニトバ大学
Prof.Makoto
Suzuki



ウズベキスタン代表から石橋前会長へ「王様」を表す冠とガウンがプレゼントされた

| [Back](#) |



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

第8回アジア歯科審美学会・第15回日本歯科審美学会学術大会報告**審美治療における歯科衛生士の重要性を再確認**

歯科衛生士担当常任理事 佐藤二三江

韓国の金淑香教授（左から2人目）と熊谷崇先生ほか衛生士、セッションの演者、座長の先生方

2004年7月16～19日に名古屋市で行われた、第8回アジア歯科審美学会では、審美歯科における歯科衛生士の役割の重要性が強調されました。韓国からは、韓瑞大学校歯科衛生学科の金淑香（キム・スクヒャン）教授が参加し、「審美歯科における歯科衛生士の役割」と題し発表しました。韓国では国民は、経済発展に伴い、歯科治療全領域に質の高いサービスを要求するようになっており、専門的技術に練達した歯科衛生士の役割が重要になっていると言います。審美歯科においては、「術者と患者の満足を増すために欠かせない存在」として、具体的な成果を発表されました。

18日の午後からは、衛生士セッションが開かれ、熱心な討議が行われました。最初に、金沢紀子先生を座長に、山形県酒田市の日吉歯科診療所の熊谷崇先生が「生涯に渡る口腔の審美、発音、機能維持のための歯科衛生士の役割」をテーマに講演を行いました。「患者が歯科に対してもっとも望むことは、一生自分の歯で食事を楽しみ、会話を楽しみ、健康的な笑顔で人と接することができること」とした上で、「欧米並みに、歯科衛生士が本来の役割を担うことによって、患者に真の利益をもたらす歯科医療の改革ができるだけ早く実現することを願います」と締めくくられました。

続いて池山豊子先生を座長に、「QOLを高めるための歯科衛生士の役割」と題したシンポジウムが開かれました。最初に府中市民医療センターの足立三枝子先生から「健康増進法により、行政における歯科衛生士の業務は確実に広がりつつある。一方で、歯科衛生士の配置は遅々として進んでいない」と問題が提起されました。社会保険中京病院歯科の小粥照子先生は「全身の健康と特に歯周病の間に深い関係があることがわかってきた」とし、糖尿病患者や妊婦の例を挙げ、病院のNST（栄養サポートチーム）の一員として歯科衛生士が口腔ケアをする重要性を報告されました。神奈川県歯科衛生士会の中川律子先生は「国は『口腔ケアによる気道感染予防』を介護予防事業の柱の一つとして提示している。口腔の健康が介護予防に果たす役割は大きい」と強調されました。池田座長は「人にとっての美はそれぞれのライフステージにふさわしい心身の健康」と、それを支える医療人としての歯科衛生士の役割が重要になっている」とまとめられました。



愛知学院大歯学部保存学教室の皆様ご苦労様でした



市民公開講座「われらが仲間、アジアの人々」モンゴル出身の歌姫オユンナさんも司会者として参加



「Global Esthetic Forum 2004@Nagoya」は多くの実りを生んで、次期アジア審美学会のリーダーへバトンタッチ。右写真左から次期IFED会長Dr.高夫妻（韓国）、左から3人目次期AAAD会長Dr.プア（シンガポール）

| [Back](#) |



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

第4回IFEDベニス大会報告



第4回IFEDベニス大会に参加して

昭和大学齲蝕・歯内治療学教室 星野睦代

去る平成16年5月27日(木)～29(土)、イタリアベニスにてInternational Federation of Esthetic Dentistryが開催されました。IFEDのNewslettersによれば、参加者は約1,500名とのことですが、日本からの参加者は約20名でした。筆者は、昭和大学歯学部齲蝕・歯内治療学講座の医局員として当講座の久光教授、東光講師とともに学会に参加し、ポスター発表もさせていただきましたが、日本歯科審美学会の広報も担当しておりますので、本学会の御報告をさせていただきます。

学会会場は、サンマルコ広場から水上タクシーに揺られて約20分程のところにある、映画「ベニスで死す」の舞台にもなったリド島で、ベネツィア映画祭が行われる場所でもありました。観光のベストシーズン中となった会期中は幸いお天気にも恵まれ、世界中から歯科審美を志すトップレベルの面々が集い、素晴らしい発表が繰り広げられました。

第1日目の午前中には、東京医科歯科大学田上順次教授による御講演もありました。長年、接着性コンポジットレジン基礎的・臨床的研究を続けられた教授の、最小限の侵襲(minimum intervention)で審美的修復が可能なcosmetic bonding techniqueなど日本の審美歯科治療の実態についての興味深い内容が注目を集めていました。第一会場のPALAZZO DEL CINEMAの定員をオーバーした為、ビデオの第2会場PALAZZO DEL CASINOでの学会参加を余儀なくされた会員も多数あったことは誠に残念でした。

第1日目の夕方からポスター展示が始まりましたが、ポスター総数は51件、日本からの参加は7件でした。私共の発表させていただいた演題は、“Methodology of measuring teeth color”で、歯の色の測色についての発表を致しました。しかし、まずポスターを展示する為の部屋がはつきりせず、探し当てて入ると、通例でしたらポスター番号順に割り当ててあるはずのスペースも無く、会場係に尋ねたところ、“おまえの好きなところに貼れば良い。”との寛大なお言葉を頂戴し、慌てて空いているスペースを確保致しました。ここでもイタリアのおおらかなお国柄を感じたのでした。また、ポスターを貼る際に、小柄な筆者が四苦八苦しながらボードと格闘しておりましたら、日本歯科審美学会の千田先生や福島先生に助けて頂きました。本当に有り難く、この場をお借りして、御礼を申し上げます！

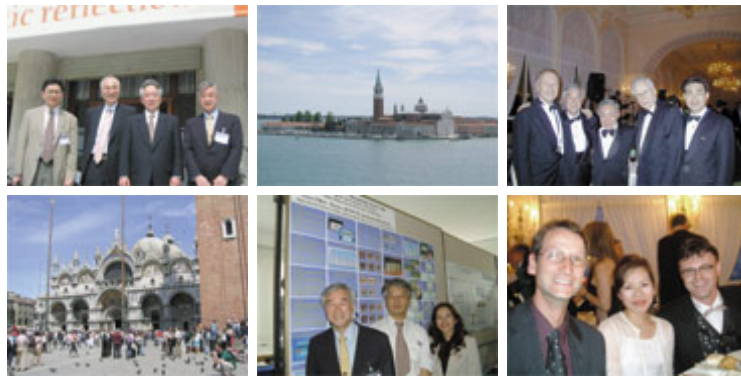
第2日目は、Henry SALAMA先生やJohn KOIS先生らの素晴らしいご発表が続き、世界の第一人者達の、最新の卓越した症例写真にひたすらため息がでました。

夜8時から、Dress Codeがformal、black tieのお待ちかねのGala Dinner Partyが始まりました。このパーティーは、海外で行われる学会の醍醐味と言えるかもしれません。朝早くから夕方まで一生懸命勉強をして、真剣に意見を交わし合っ、さて夜はみんなおめかしをして紳士淑女達はフルコースのディナーをいただきました。私は、ドイツからの歯科医達のグループのテーブルに着席しました。お互い母国語ではない拙い英語でやっと意思の疎通をはかり、楽しい時間

を過ごしました。そのGala Dinnerの席で愛歯技工専門学校 学校長の桑田正博先生にEAEDから名誉会員証が贈られました。これは、先生の永年の御功績に対するたいへん名誉ある賞で、パーティー会場中が割れるような拍手の中、その場に同席することができて同じ日本人として大変感激し、誇らしい思いがしましたのを覚えております。また、桑田先生は、29日のIFED VIPパーティーではIFEDから感謝状を授与されたということもここで併せて御報告させていただきます。さて、Gala Dinnerは夜が更けるまで生演奏をバックにダンスに興じる人で盛り上がり、また明日からの英気を養ったのでした。

最終日の第3日目も朝から会場は熱気を帯び、活発な質疑応答がありました。午後には前夜表彰された桑田先生の御講演がありましたが、Dr.Katzとの会話ビデオも流され、金属焼付ポーセレン誕生の裏に隠された素敵なロマンスのお話は聴いている人を引きつけました。

国際学会に出席する為には、事前の準備も大変で、日本国内学会に参加するよりはるかに労力が必要となりますが、世界の歯科医療を肌で感じ、生きている最新の技術、海外の姿勢を眺めることは刺激になります。是非次回は今回よりもう一歩前に進んだ自分になって学会に出席したいと、心から願いました。また、一人でも多くの日本人関係者が集えることも…。日本の歯科審美学会が、今後もっと開かれたものとなり、参加者に活力を与え、一人一人の明日からの歯科審美治療がより良いものとなるようにと、イタリアの青い空の下で感じた次第です。





2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



第13回日本歯科審美学会学会優秀発表賞を受賞して
岩手医科大学歯科補綴学第二講座 照井崇之

この度、第13回日本歯科審美学会優秀発表賞（臨床報告）を受賞いたしました。日本歯科審美学会は様々な分野の先生が参加されており、本学会においてこのような賞を受賞できたことを大変光栄に思います。今回受賞した内容は「歯冠頬側面の膨隆によってリップサポートを改善した症例」というタイトルで、歯科審美に掲載させていただきました。

本症例は上顎右側中切歯の欠損により右側の歯列弓が内方に移動したことで失われた右側のリップサポートを、ラミネートベニアを装着することで回復した症例です。ラミネートベニアは前歯部、小臼歯部あわせて4本装着しました。形態の決定は常温重合レジンで口腔内で直接築盛し、話し合いながら行いました。試行錯誤の後、患者さんの満足が得られたところで初めて支台歯形成を行いました。このようにコミュニケーションに多くの時間を割いたことが満足のいく結果が得られた一因であったと思います。術後はリップサポートが改善され、自然な笑顔が獲得出来ました。本症例は表情をつくるにあたって歯のもつ役割の大きさを再認識させてくれました。

今回は治療時間に制約があったため、ラミネートベニアによる修復を行いましたが、学会当日には、本症例における多方面からのアプローチの仕方についてご意見を頂き、とても有意義な質疑応答の時間を過ごすことができました。今後も臨床医として研鑽を積み、成長したいと思っています。

学会優秀発表賞は、ポスター発表後学会誌に原著論文あるいは臨床論文として掲載された論文の中から、研究報告と臨床報告の各一編を学会優秀発表賞選考委員会において選考されます。

【第13回大会優秀発表賞研究報告】

五十嵐奈美氏他（東北大学大学院歯学研究科）

視感比色法の精度に関する研究—環境条件の変化による等色判定効果について—、歯科審美、16

(1) , 27-35, 2003



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



第14回日本歯科審美学会大会デンツプライ賞を受賞して
医療法人本山歯科 本山智得

平成15年度日本歯科審美学会デンツプライ賞をいただき、感無量に浸っています。「審美歯科診療におけるアロマセラピー導入の試み」という演題で発表させていただきました。アロマセラピーにおける「香りの演出」は欧米ではすでに汎用されており、「嗅覚」が五感の中で視覚や聴覚にも勝り、イメージの創造や記憶にも多大な影響力があるといわれています。そこで歯科医院の「におい」の概念を変えるべくアロマセラピー導入の効果について検討をしました。アロマセラピーを導入している医療機関が少ない現状の中、エッセンシャルオイルの位置付けやコストの問題などの問題点を一つ一つ検討し、審美歯科診療における患者様への効果が少しでも現れることを期待して、これからも継続して研究を続けたいと考えています。

本受賞は、広島大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔頸部医科学講座（保存修復学研究室）との共同研究の賜物であり、私は発表ということで運が良くこのような栄誉を手にすることができました。医局の先生方には御指導を頂き大変感謝しております。本当にありがとうございました。

デンツプライ賞は、デンツプライ三金株式会社がスポンサーし、ポスター展示の中から全理事による投票で選ばれた演題に対して贈られるものです。過去の受賞者は以下の通りです。

第11回大会：桑原 栄氏他（ナグモ歯科）

第12回大会：諏訪裕彦氏他（諏訪歯科診療所）

第13回大会：石川正夫氏他（ライオン歯科衛生研究所）



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

委員会報告

総務報告

このたび、田上順次新会長より久光久理事の後任として総務担当を拝命いたしました。このような重職をいただくのは私にとって初めてです。なにぶんにも至らぬ点が多々あろうと存じますが、会員皆様の支えによってこれから2年間精一杯務めさせていただきます。

顧みますと私は研究会時代から一般会員として毎回欠かさず学会に参加してまいりました。平成11年度には岩久正明元会長の下で準備委員長として第10回大会を主催させて頂きました。平成12年度からは評議員・理事にして頂き、千田 彰理事の国際渉外委員会に属してIFED（国際歯科審美連盟）日本代表をさせて頂いております。この15年の間、歯科審美学領域の学会が国際的に数多く設立され、IFEDの設立メンバーとして本学会の役割も重要になってまいりました。審美歯科のトピックスも時代の変遷とともに変化してきております。しかし、われわれのめざすものは「心身共に健康であることが最も美しい」いわゆる健康美であり、そのために過剰な医療介入があってはなりません。今、世界の高齢化の先頭をいく日本ではPPK（ピンピンコロリ）と言われるように、おいしく食べ、楽しく語る心豊かな老後を過ごし、人としての尊厳を保った死を迎えるために老前に何をすべきかが問いかけられています。アンチエイジングはまさにそのことを代表する言葉でしょう。審美歯科もそれに対して貢献できるものがあるように思います。高齢者審美（Geresthetics）はこれからの歯科審美学の重要なキーワードになると確信しております。私が今年度から担当しております歯科衛生士4年制養成の新学科にもこうした考えを吹き込んでいきたいと思っております。

本学会の会員数は平成16年11月現在1,828名で、その数は年々増加しております。歯科技工士および歯科衛生士の認定士制度も始まりました。国民の心をつかむ審美歯科をめざしてこの学際学会が発展していくことを願っています。平成17年度第16回大会は初めて臨床家（諏訪富彦理事）が大会長を務められます。臨床家の立場から日常臨床に役立つ数多くのプログラムが立案されていますので楽しみにしててください。では、皆様、大阪でお会いしましょう。

（総務担当 福島正義）

学術委員会

第14回学術大会（2003年度・新谷英章大会長）のポスター発表で学会誌に投稿された論文（学会誌『歯科審美』第16巻2号、第17巻1号に掲載された研究報告11編、臨床報告4編）の中から、学会優秀発表賞2つを以下のとおり決定いたしました。

研究報告

発表者：濱野 徹、西 恭宏、木下智恵、水流和徳、長岡英一

所 属：鹿児島大学医学部・歯学部附属病院成人系歯科センター

義歯補綴科他

題名：「ガラス繊維補強型高分子材料のクラスプへの応用
－繰り返し着脱が維持力に及ぼす影響について－」

臨床報告

発表者：吉田恵一、松村光明、三浦宏之

所属：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再構
築学系摂食機能保存学講座摂食機能保存学文野

題名：「新しいオールセラミックブリッジの臨床評価」

* 「デンツプライ賞」は以下の演題に決定いたしました。

受賞者：菅原 淳（若林歯科歯周病研究所）

演題名：『セラモメタルクラウンと歯肉組織の平和的共存を目指して』

* 以上の表彰は第16回学術大会（大阪／2005.10.8～9）にて行われます。

（委員長 佐藤 亨）

編集委員会

日本歯科医学会分科会の一つの条件として、機関誌「歯科審美」掲載の原著論文を年間20編以上確保する必要があります。編集委員会では、その実現に向けて、「歯科審美」を読者にとって魅力あるものとするべく、論文区分を、総説、原著、臨床（症例報告、各種術式、臨床のヒントなど）、誌上セミナー、特集およびその他として、誌面を刷新することにしました。現在、企画を検討中ですので、テーマや執筆者などご意見がございましたら、是非、編集委員会にお寄せ下さい。また、会員各位ご自身、日頃の診療や技工で培われた種々の工夫、興味ある症例、治療成績の分析結果など、億劫がらずに、学術大会でご発表の上、論文としてご投稿下さい。それらは、ご自身の認定医・認定士の取得や更新につながるだけでなく、他の会員にとって貴重な情報となります。さらに、その情報発信から、研究の芽が生まれ、その研究成果が臨床や教育に還元されるようになれば、原著論文20編の確保も可能となります。

誌面刷新（18巻2号からの予定）準備の一環として、投稿規定の変更などの情報を17巻1号に掲載しました。第16回学術大会・総会（平成17年10月開催）から、発表内容は講演論文としてでなく、事後抄録として収載することになり、事後抄録の記載ならびに提出要領も掲載されています。是非、ご一読下さるようお願いいたします。

7月から、田上順次会長のもとに新執行部が発足しましたが、誌面刷新作業中でもあることから、委員長（長岡英一）は留任しましたので、精鋭揃いの委員（伊東隆利、渋谷耕司、新海航一、末瀬一彦、寺田善博、日野浦光、森田修一、山本克之）全員と幹事（濱野 徹）にも続投をお願いしました。末瀬委員は認定審議会の委員長でもありますので、両委員会の連携促進が期待されますが、会員各位のご支援をお願いいたします。

（委員長 長岡英一）

国際渉外委員会

今期も引き続き国際渉外委員会委員長を務めさせて頂くことになりました。会員の皆様の本学会国際交流、活動にご理解とご支援を頂くことをあらためてお願い申し上げます。本学会は歴代会長の格別の配慮を頂き、歯科界の他学会には類をみない盛んな国際交流を行って来ました。一方で「海外のことより、国内のことが大事では」というご意見もあります。しかし今後の会員への情報提供、海外の学会と連携した国際的な社会貢献などを考えた場合には国際歯科審美学会（IFED）、アジア歯科審美学会（AAAD）などとの交流はきわめて重要で不可欠であると信じています。

本年はすでにご報告申し上げた通り、皆様の絶大なご支援のもとで第8回のAAAD大会をホストして名古屋で本学会第15回大会を催しました。アジアの大会は隔年開催ですので、次期大会はシンガポールで2006年に開催されることになっています。正式な日程の通知は未だありませんが、7月に行われるように聞いております。またこのAAADの構成が大きく変わることになりました。すなわちこれまでは個人会員制・加入制でしたが、これからは学会単位で会員となる制度、つまり連盟制になりました（当面は学会組織をもたない国々のため個人会員制も残す）。これによりJAED会員は自動的にAAADの構成員ともなります。

一方、IFEDは2004年にベニス（リド島）で盛大に第4回大会を催し、本学会からも多数の参加者があり、また招待講演者に桑田前副会長、学会代表公式講演者として田上現会長が選ばれて講演されました。次期大会は韓国ソウルで2007年に開催されることがすでに決定されています。ふるってご参加下さい。なおIFEDはホームページの充実を進めてきましたので、皆様もぜひ<http://www.ifed.or>を訪問して、国際的な審美歯科の学会活動の一端をご覧下さい。また2005年2月にはIFEDの定例理事会、総会がシカゴで開催されますのでその報告は別にご案内させていただきます。

（委員長 千田 彰）

会則検討委員会

前委員長の新谷英章常任理事より次期会長候補者をどのように会則に盛り込むか、検討中である旨の報告を受けておりますので、最初の仕事はそのあたりの仕事になるかと考えております。いずれにしても本学会の現状に合わせてスムーズな運営ができるような会則に仕立てあげて行きたいと思っておりますので、皆様からの種々なる後提言をお待ちしております。

新会則検討委員会メンバーは次の先生方によって構成されております。何かご希望がありましたら各先生方にコンタクトして頂きたいと思っております。

平井義人（東京歯科大学歯学部歯科保存学第3講座）

田中貴信（愛知学院大学歯学部歯科補綴学第1講座）

新谷明喜（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座）

新海航一（日本歯科大学新潟歯学部歯科保存学第2講座） 幹事

（委員長 加藤喜郎）

認定審議会

日本歯科審美学会の発展に多大のご尽力をされました石橋寛二前会長の後を受けて、新進気鋭の田上順次会長が就任され、新しい執行部も組閣されました。このたび田上会長のご拝命によりまして加藤喜郎前委員長の後任として認定審議会委員長に就任させていただきました。加藤委員長は、日本歯科審美学会認定医の拡大に積極的に取り組まれ、取得しやすい規定に整備されてこられました。歴代の認定審議会においてこれまで総計65名の認定医を輩出されました。浅学非才の私は加藤先生のような手腕を発揮することはできませんが、認定医制度に則った価値ある専門性の高い学会認定医をお一人でも多く取得されるよう委員の先生方とともに協議、推進したいと思っております。よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

認定審議会委員会メンバー

委員長：末瀬一彦

委員：川和忠治、宮崎 隆、松村英雄、本多正明、橋場千織

幹事：木下浩志

平成16年度第1回認定審議会委員会報告

【日 時】平成16年7月30日（金）10：30～15：30

【場 所】東京・八重洲倶楽部会議室

出席者：加藤喜郎委員長、川添堯彬、長谷川 明、平井敏博（各委員）、新海航一（幹事）

1. 第15期認定医審査結果について5名の書類申請があった。
須崎 明氏、有本憲弘氏、松井 治氏、田上順次氏について書類審査、ケースプレゼンテーションおよび口頭試問による審査の結果、全員合格。
2. 認定医更新について
平成16年度前期更新者29名の更新書類審査の結果、学会出席照明コピーの不足、本学会に関する業績不足などの不備が挙げられたが、これらは前回まで自己申告制度を採っていたために生じたと考えられるので、今回に限りこれらの不備については更新者に対してコメントつきで更新可とする旨確認。

現在まで65名が日本歯科審美学会認定医を取得。

今後の委員会スケジュール

第2回認定審議会委員会は平成16年12月17日（金）13：00～16：00に開催。第16期認定医申請者4名に対する書類審査を行い、口頭試問は平成17年1月下旬ごろに予定されている。

（委員長 末瀬一彦）

認定士制度検討委員会

石橋寛二前会長のもとスタートした認定士制度運営委員会は、新たに数名の委員の参加を得て田上順次会長のもと、より発展的に運営されています。

学会誌等で広報しました、日本歯科審美学会平成16年度第二期認定士資格審査を12月9日（木）11：00～15：00・東京グリーンホテル水道橋にて実施致しました。

認定士申請の受付は平成16年11月4日に締め切られ、書類審査に合格した者は歯科技工士6名、歯科衛生士4名でした。当日のケースプレゼンテーション及び口頭試問には書類審査合格者10名全員の出席を得ました。ケースプレゼンテーションは、1人30分の審査時間の内10分～15分でスライド及びパソコンなどによって臨床発表、その後口頭試問が行われました。

歯科技工士歯冠修復5名、インプラント1名、歯科衛生士4名

審査当日は6名の審査委員によって厳正な審査が行われ、歯科衛生士4名、歯科技工士6名、合計10名の合格者となりました。

第3期（平成17年度春季）の認定士申請の受付は下記の期間となっています。

申請希望者は受付期間中に申請書類を（財）口腔保健協会の日本歯科審美学会事務局宛にご送付下さい。なお、詳細は「歯科審美」第17巻第2号に掲載される「認定士申請手続きに関するお知らせ」をご参照下さい。

春季認定士申請受付期間

平成17年4月1日（金）～5月13日（金・必着）

日本歯科審美学会会員、歯科衛生士、歯科技工士諸氏の申請をお待ちしています。

（委員長 桑田正博）

広報委員会

「微笑みの貴公子」という枕言葉が冠せられる韓国俳優の一大ブームは、綺麗に並んだ白い歯がいかにさわやかで、優しげな微笑がどれだけ相手を魅了するかを日本の人々に強く印象づけたのではないのでしょうか。人柄が大変良い人だと報道されていますが、もし歯並びが悪かったり汚い歯だったら、微笑みはこれほど人を魅了しなかったことは間違いないでしょう。人気を博している韓国スター達の一様に美しく並んだ白い歯を見るにつけ、韓国審美学会の隆盛を見る思いがします。日本でも微笑みの貴公子・淑女が沢山生まれてほしいものです。

広報委員会委員は前期からの武田英司・橋場千織・星野睦代・宮内修平、新規加入の椿智之・日野年澄の諸先生方です。田上会長の一般の方への広報活動を活発化して患者側のニーズを高めようというお考えを実践すべく努力致します。

本年度は諸般の事情からNewsletterの発刊が10号だけとなりましたことを深くお詫び致します。

（委員長 黒田康子）



2005年 Winter Vol.10 (2005年1月発行) より

昭和大学歯科病院に美容歯科の誕生

昭和大学歯科病院美容歯科 真鍋厚史

昭和大学歯科病院美容歯科は今年9月に開設されました。また、来年4月には特別診療室として新しく診療ブースを設置する予定であります。

本大学は医学部を主体とした医科系総合診療システムを基本概念とし、そのため美容歯科の基本姿勢もこれに準じているものといっても過言ではありません。美容外科（形成外科）、皮膚科との連携をしっかりと確立し口元の健康美や口腔内の金属修復物が原因であろう金属アレルギーなどを中心に診療するということが幹となります。すなわち口腔内の治療のみならず口唇や口唇周辺の問題がある場合や先天性の機能障害がある場合また金属アレルギー患者を美容外科と皮膚科とのチーム医療によって患者への対応を進めていく考えです。その結果、患者の広い美容に対する要望を満足できる医療が可能となると考えております。

もちろん現在の審美歯科の中心である歯周補綴、審美歯周、矯正、漂白なども必要に応じて診療していく所存であります。しかしながらこのような高度先進歯科治療を進める一方では接着歯科、Minimal Intervention、予防歯科なども無視し得ないのが現状であると思われ、本美容歯科はこのような診療こそ本来の健康美やアンチエイジングに対する歯科医療であると考えております。従来から行われているコンポジットレジン修復やラミネートベニヤ法などによっても対応しようと考えております。駆け出しの診療科でありますためたくさんのお悩みや改良点があると思われ、今後ともご指導、ご意見をお伺いながら診療していく予定です。



昭和大学歯科病院